

秋期特別展

神奈川の植物

1988. 10. 15 - 11. 20

平塚市博物館

この特別展は、1988年3月に「神奈川県植物誌1988」の刊行を記念して、神奈川県立博物館で開催された「神奈川の植物展」の内容を中心に湘南地域の植物についての情報を加えて展示したものです。開催にあたって、資料の借用などで、神奈川県立博物館の全面的な協力を頂きました。

●「神奈川県植物誌1988」の刊行まで

神奈川県は日本の中で、江戸時代から植物の研究が進んだ地域の一つでした。それは長崎のオランダ商館のメンバーが江戸参府の折に、自然の豊かな箱根で植物を採集したことが大きな理由になっています。その伝統は明治以降も引き継がれ、1933年には県単位の植物誌として先駆的なものの一つである「神奈川県植物目録」（神奈川県博物調査会）が刊行されています。続いて戦後の1958年に「神奈川県植物誌」（神奈川県博物館協会）が作られました。

しかし、高度経済成長に伴って県内の自然は大きく姿を変え、植物相の現状についての正確な情報が求められるようになってきました。そのため、1979年3月に県立博物館と、市民の植物愛好家を中心となって「神奈川県植物誌調査会」が結成され、市民による市民のための現代の植物誌の編纂が計画されました。この調査は、県内を108のメッシュに分け、それぞれに自生する植物の全種類を証拠標本として集め、その情報をパソコンで処理して分布図を作成しようというものです。県立博物館の他、横須賀市自然博物館、平塚市博物館が地域のセンターになり、約100名の調査員が参加して9年間にわたって野外調査が行われ、約12万点の標本が集められました。それをもとに1442ページにのぼる「神奈川県植物誌1988」がとりまとめられました。

●神奈川県に何種類の植物が自生しているか

植物誌調査の結果、県内から記録された植物は、下表のようにまとめられました。軽微な特徴の品種を除くと、神奈川の植物は約2800種とすることができますが、そのうち5分の1にあたる約600種が帰化植物です。

植物のランク別の数

	種	亜種	変種	品種	雑種
シダ植物	231	1	10	8	34
裸子植物	22	0	0	0	0
単子葉植物	670	2	75	26	27
双子葉植物	1515	17	202	60	74
離弁花	929	9	112	42	29
合弁花	586	8	90	18	45
合計	2438	20	287	94	135

●明らかになった分布パターン

今回の調査の最も大きな特徴は、全種類の植物について県内の分布が明らかになったことです。分布図からは、いろいろな情報を読みとることができます。神奈川県は小さな県ですが、その中でもそれぞれの種類によって分布の偏りがあることが分かりました。代表的な分布パターンとしては次の5つがあります。

- ・ブナ型／丹沢箱根の1000m以上のブナ帯に分布し、一方のみに分布する種もある
- ・ミズナラ型／ブナ帯から 500m付近まで分布する山地性の種類
- ・コナラ型／ブナ帯を除く地域に広く分布
- ・ヒメユズリハ型／海岸に近い地域だけに分布
- ・エゴノキ型／県下全域に広く分布



●湘南を特徴づける植物

湘南地方は、際だった自然の特色はないように思えますが、分布図を見ていくと、湘南を中心に分布し、県内の他の地域にあまり見られない植物があることが分かります。

- ・海岸に特産するラン／ハマカキラン、クゲヌマランの2種は全国的に見てもほぼ湘南に分布が限られる興味深い種類
- ・砂浜の植物／ハマエンドウなどの砂丘性の海岸植物
- ・相模川の植物／特にカワラノギクなど砂礫地に生える種類に特徴
- ・低湿地の植物／マコモ、アシカキ、ゴキツルなど



●分布の不思議

分布図を見ていくと不思議な分布をしている植物に気づきます。例えば、ヒトツバハギやササクサは藤沢方面では普通に見られるのに、平塚にはまったくありません。イタチササゲとミヤマタニワタシは丹沢の南麓にほぼ分布が限られています。カンアオイ類ではカントウ、ズソウ、オトメ、タマノの4種類が見事な地理的なすみ分けを示しています。こうした分布がどうしてできたのかを、地形や地史と結びつけて考えていくことはたいへん興味深い研究テーマです。



●新しく見つかった帰化植物

横浜、横須賀の港があり、古くから外国との往来が多かった神奈川県は、帰化植物が多いことで知られてきました。今回の調査でも、数多くの種類が記録されましたが、中には日本で初めて発見され、新しく名前がつけられた種類もありました。湘南地域ではメリケンムグラモドキ（平塚市）、ナイトウニガナ（伊勢原市）、カワリミタンボボモドキ（秦野市）などがその例です。これらの植物が一時的に現われたものか、定着して勢力を広げていくのか、今後の動向が注目されます。

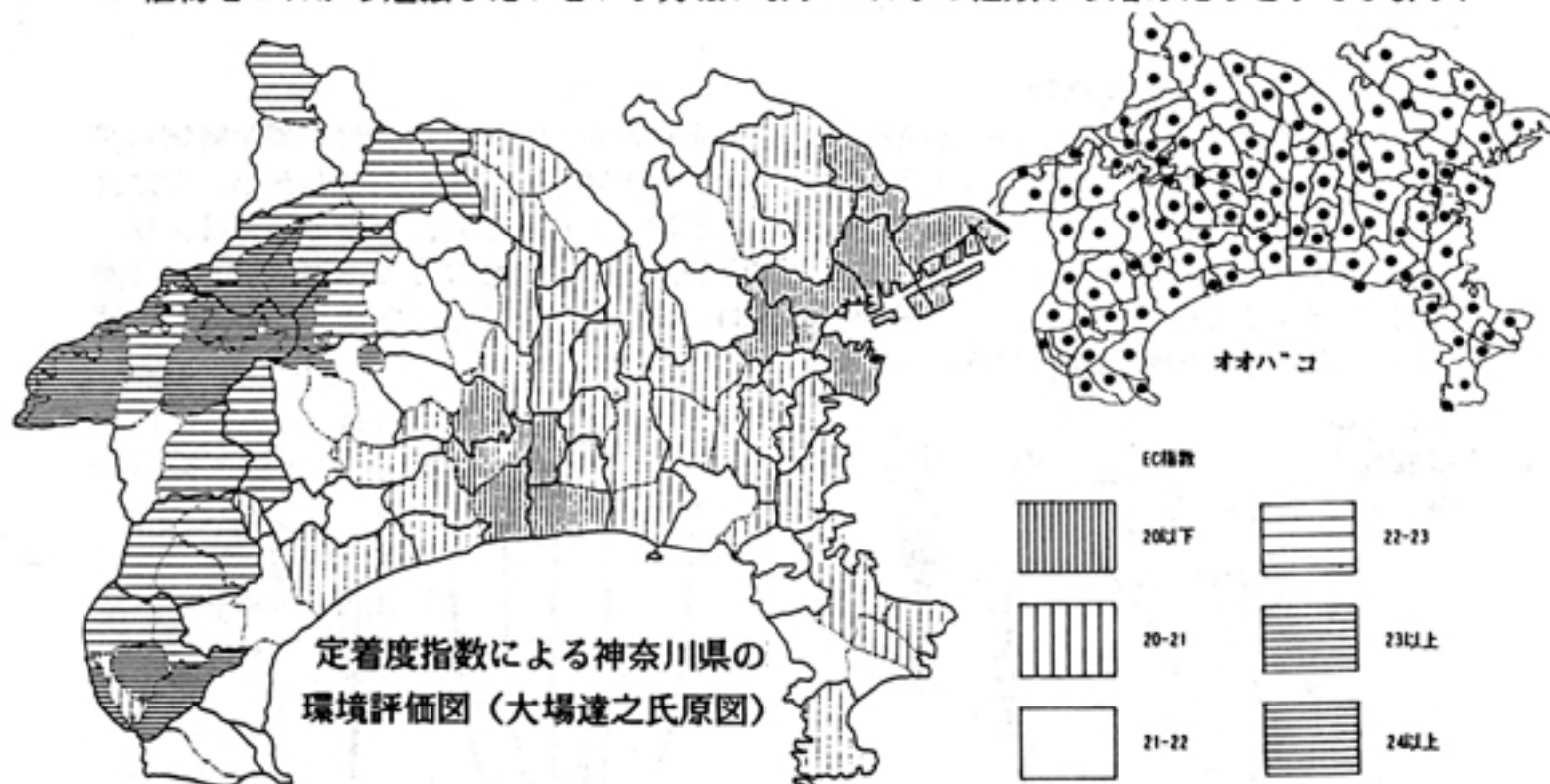


● 普通の植物は？

108のメッシュの内、100以上のメッシュで記録された植物は56種類がありました。これらが県内どこでも見られる代表的な植物ということです。

- ・107/オオバコ・フキ
- ・106/イヌワラビ・イタドリ・センニンソウ・ミツバアケビ・フジ・ニワトコ・ヨモギ
- ・105/ススキ・ヤマゲワ・ウツギ
- ・104/トボシガラ・ムラサキシキブ・ガマズミ・ノコンギク・タイアザミ・ハルシオン
- ・103/コブナグサ・ミズヒキ・イヌタデ・モミジイチゴ・シロツメクサ・ゲンノショウコ・タチツボスミレ・ミズキ・イワニガナ
- ・102/スギナ・カモガヤ・ホウチャクソウ・サルトリイバラ・ケヤキ・タケニグサ・ウド・ヘクソカズラ・ヒメジョオン
- ・101/ゲジゲジシダ・カモジグサ・オニウシノケグサ・スズメノカタビラ・ツメクサ・イヌガラシ・カマツカ・アカネ・ヒヨドリバナ・ヤクシソウ・アキノキリンソウ・
- ・100/ゼンマイ・カミエビ・コゴメウツギ・サンショウ・ツタ・ミツバ・クサギ・アメリカセンダングサ・コウゾリナ

植物をこれから勉強したいという方は、まずこれらの種類から始めたらどうでしょう。



● 植物による環境評価

今回の調査を指導された大場達之先生は、ある地域の植物相から環境の評価を行う方法として定着度指数を提案されています。これは、各種類がその地域に土着なものか、近年かけ離れた所から渡来したものかを、移住の時期・生活空間の自然～人為度・渡来の手段・分類群の異質性・生物地理上の異質性の5項目から評価し、記録された全種類の指数の平均値を指標とするというものです。この方法で今回の調査の結果を分析したところ、下図のような評価が得られました。これによると、平塚や茅ヶ崎の中心部は京浜地域と同程度に都市化が進んでいることが示されています。

1988年秋期特別展

1988.10.15-11.20

神奈川の植物

平塚市博物館

〒254

平塚市浅間町12-41

TEL.0463-33-5111